

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム すてきだね ほほえみ館	評価実施年月日	平成21年2月19日
評価実施構成員氏名	天坂 久保 五十嵐	阿部 平野 花本	伊賀 宮下 佐藤 門井 福本
記録者氏名	天坂	記録年月日	平成21年2月19日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念</p> <p>“素敵だね 笑顔がいいね この家で それぞれの そしてみんなの 今が生きてる”パンフレットに掲載。来訪者にも見て頂けるように、玄関に掲示している。</p>	<p>○</p> <p>地域の方の入居を優先に考えている。自宅介助をしている人が相談に乗れるような場所にしていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>常に皆が笑顔でいられる様に、コミュニケーションを取り明るい雰囲気を作っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念を玄関に掲げ、来訪時に目の届くようにしている。運営推進会議(3回開催)を行い伝えている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>外出時に挨拶をしている程度で、散歩の時に畑仕事をしている人などに声を掛け入居者の社会参加に努めている。その為、自家栽培の野菜を頂いたりもする。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に入会している。</p>	<p>○</p> <p>入居者の状態の変化もあり、現状行事等の参加は困難な為、ホームの行事に参加してもらえる様に働きかけていきたい。消防訓練や、ほほえみ祭り等。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>現在出来ていない。</p>	<p>ホーム入居者の安全を守るために精一杯で出来る状況でなかった。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価に伴い改善に取り組んでいこうと思っている。	○	現場の安全を守るのが精一杯で余裕がなかった。今後はやっていこうと思っている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的な開催が出来なかった。	○	変則な開催になってしまった。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険認定手続きや分からないこと等が合った場合は市役所に訪問したり電話をしたりし相談を行なっている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な人にはそれらを活用できるよう支援していきたい。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待は行なっていない。 虐待については、職員一人ひとり徹底し話をし防止に努めている。		5分間ミーティング等を利用して問題の無いように話し合い解決していくようにしている。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事務長、管理者、介護支援専門員が具体的に説明を行い、理解、納得を図っている。	○	解約の時に十分に理解を頂けず不安や疑問をもたれることがあった。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	その都度不満や、苦情を聞き対応している。	○	現状、管理者が対応しているので、今後職員が誰でも対応出来るようにしていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月通信を作成し郵送している。本編とは別に個人ページも作成し状況を報告している。健康状態に変化が見られた場合はその都度家族へ報告している。遠くの家族さんには現状報告書を送っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。面会時等でも気軽に話してもらえるように配慮している。来訪時には、声を掛け、日頃の様子を報告し、相談しやすい工夫をしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	5分間ミーティングを行なっている。(可能な限り毎日)話し合いの内容は連絡ノートを活用している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	可能な限り行なっている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は出来る限り行なわないようにしている。やむを得ず異動がある場合は、説明している。離職の場合は、ダメージを受けるであろう入居者には、離職の理由を説明し負担にならないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会を増やしている。 必要に応じて参考となる資料の提供を行なっている。 介護技術も経験者からの指導伝達が行なわれている。	○	外部研修へ参加が必要と考えている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ネットワークは出来ていないが、交流は出来ている、課題の対応法や相談は出来る、その中でサービスの質の向上もある。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	何でも話せる雰囲気作り心がけている。	○	シフトの関係上困難な事もあるがもう少し交流、雑談が出来る位の時間を取れるようにしたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	勤務状況を見て、資格手当、昇給を行なっている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必ずホームの見学を行なってもらい、雰囲気を感じてもらっている。 困っていることがあれば出来る限り受け止めるようにしている。	○	地域の人たちがいつでも訪問でき、ボランティア活動できる、ボランティアの人たちから地域の老人や家族から頼りにされるホームになればと思う。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事務長、管理者、介護支援専門員が相談を受けられる体制をとっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	相談を受け、出来る限り対応をしている。機能低下を防ぐ為のリハビリなど。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	現在、お試し入居を行い、ホームに馴染めるか、他の入居者との生活が行なえるか、本人の不安にならないか等の工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	家庭的な雰囲気の中入居者と接している、人生の先輩である入居者さんに日々色々な事を学ばせて頂いている。	<input type="radio"/>	もう少し一緒に居る時間を作りたい。
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	ほほえみ祭りや、クリスマス会等に参加して頂き、共に楽しんでいる。本人の希望や気持ちを考え、来訪時や電話連絡にて、日頃の様子を伝え家族さんの想いも取り入れながら関係を築いてるが、家族離れを感じられる。	<input type="radio"/>	家族離れの防止
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	現在の状況を説明し、誤解の無い様に配慮している。	<input type="radio"/>	要望があるときはどのような時でも、時間を合わせ、話し合いをしている。
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。</p>	家族、友達の面会を自由に行っている。外出・外泊も自由にして頂き、携帯電話を利用している方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の性格や入居者同士の関係を把握している。折り合いの悪い入居者さんには、スタッフが間に入りトラブルを防いでいる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	行なっている。入院のお見舞い等もしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人から聞き取り家族の要望を聞く話し合いをし、無理なく生活ができるように配慮、支援している。 アセスメントはスタッフ全員に記入してもらっている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族に出来る限りの生活歴を聞き、入居時一覧表にしている。入居後知り得た事も記入しケアプランに生かしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	健康状態を把握し、一人ひとりに合わせた過ごし方をしてもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	現場の職員が意見を出せるようにしている。 モニタリングやカンファレンスを行い介護計画を作成している。	○	スタッフの意見が聞けるように担当者会議前にアセスメント用紙に記入してもらっているが、端的に記入出来る物にしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月一度のモニタリング実施 スタッフ記入、聞き取り部分的に中止や修正をしている。 家族の要望があった時もミーティング後に対応している。	○	職員全員の考えをうけるようにしていきたい。 入居者の中に入り一番良いと思えるプランを作っていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	時系列で個別に記録している。 モニタリング月一度 介護経過記録は3ヶ月に一度記入。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	経営母体である整形ヘリハビリに通ったり、同経営のデイサービスの場所をかり、クリスマス会等を行っている。 夏祭りは合同で行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	夏祭りに、福祉専門学校ボランティア、よさこいのボランティアの協力を得て支援している。消防訓練の協力も得ている。 2ヶ月に一度大正琴のボランティア協力 年2回消防訓練	○	子供達とのふれあいが出来るようにしていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	山下整形のリハビリの利用、通院介助を行っている。地域包括センターの研修に参加し、相談アドバイスを得ている。 他事業所のケアマネと電話やFAXで交流している		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	良い関係で協働している。		支援が上手くいかない時家族の要望とホームの介護がかみ合わない時など相談しアドバイスをもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科受診。協力医療機関の婦長(非常勤看護師)と常に連携、相談を行っている。		入居者の様子を観察し受診時に伝えている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけの内科医と相談し対応している。必要時、主治医の指示により、専門医受診(家族対応)している。受診内容、治療法の指示を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	非常勤の看護師を確保している。日常の健康管理の指示を受けている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院に向けて、家族を通して病院関係者と相談して行なっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ホームでの終末を希望されている本人、家族には早い段階でDrより説明を行い、家族の意向を聞き対応している。方針が決まり次第、スタッフとミーティングを行なう。	○	管理者、スタッフと家族の信頼関係を大切にしてい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族、かかりつけ医師、看護師と連携を図り行なっている。入居者が終末期をホームで迎える時は、スタッフ全員でミーティングをし方向を見極め取り組んでいる。		協力医の指示、家族の想いに添い、出来る限り入居者がより良い終末期を迎えられるよう取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>話し合いを十分にしている。 情報提供シートを活用している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>スタッフがそれぞれ気を配り対応している。 記録については指導ミーティングを行なっている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者さんの声にスタッフ一人ひとりが耳を傾け不安の無い様な声掛けを心がけている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>スタッフの配置、状況によるが、出来る限り入居者のペースで支援するようにしているが、ホームのペースに合わせてしまうこともある。</p>	○	<p>入居者の希望を優先していきたいと努力しているが、人数、時間等の余裕が無く出来ていないこともあるので改善したいと思っている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>多数は、訪問理美容で行なっているが、馴染みの関係が出来てきている。自分の望む店に出掛ける方もいる。ホームスタッフに希望する方も居る。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立作成の時に食べたいものを聞いたり、下ごしらえ、盛り付け、後片付けを一緒に行なっている。味付けや味見も手伝っていただいている。 スタッフと共に話をしながらその場でのコミュニケーションを大切にしている。</p>	○	<p>外食や、出前も出来たらと考えている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	健康、安全の為、お酒、タバコはホーム内では遠慮してもらっている。また、入居時にその旨説明している。おやつや飲み物は好みの物を楽しんでいただいている。自室に冷蔵庫を置いている方もいる。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	毎日の排泄チェック表を作りパターンを把握し必要に応じてリハパン、パットの使用をしている。失敗の無いように声掛けも行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	業務上、時間を決めての入浴になっている。時間帯がまちまちだとスタッフの手が足りなくなり他に危険が生じる為。また、希望があった場合、出来る限り希望に添うようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自由に休息をとってもらっている。居室やソファでも自由に横になってもらっている。消灯時間の決まりは無く、好きな時間に休んでいただいている。	○	昼夜逆転にならないように気配り、配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来る方、負担にならない方には、食事の準備や、あと片付け、掃除などをしてもらっている。また、個々の能力の差が大きく一緒にレクリエーション等を行なう事が難しい為、その人に合わせた支援をしている。	○	冬季間は外に出る機会が少なく、気晴らしが出来ず気分が落ち込む事があり、今後の課題として考えている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持し問題の無い入居者さんは持っていて、時には使用している。お金を持つ事の大切さは理解しているが、認知症に伴いお金の管理が困難な入居者さんも居る。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の希望に添えない事が多いが、出来るだけ配慮し対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	デイサービスのバスを利用し、お花見や、紅葉見物。初詣等に出掛けている。また、個別での対応も行なっている。家族の協力もあり。	○	もう少し家族の協力を要請していきたいと思っている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話は個人で居室につないでいる方もいる。他の方は、ホームの電話を自由に使用してもらっている。介助が必要な方は支援している。携帯電話を使用している入居者もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限は無く気軽に来訪してもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関の施錠はしていない。鍵をかけない理由を理解している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に入居者の目の届く所にスタッフが居て様子を把握している。日中居室で過ごされている方は、一時間おきに巡回をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個人の物品は管理してもらっている。入居者の状況により危険と判断し預かる事もある。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	年2回の避難訓練の実施。 転倒事故防止の勉強会を開催(山下HP:Dr、PT)し事故防止に努めている。 転倒の危険がある入居者に対しては、手引きや同行、見守りを行なっている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し閲覧できるようにしている。 現在定期的な訓練は行なえていない。		消防の救命救急講習の実施。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練の実施。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時、状態変化時にリスクについて、ご家族に話している。高齢の為、急変が考えられる場合には、Drよりその旨説明してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	医師、看護師の指示の元適切な対応を行なっている。毎日のスキンシップで変化等が見られた際は早急に医療機関を受診し対応している。申し送り、連絡ノートを活用しスタッフと連携をとっている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	いつでも入居者の飲んでいる薬の説明書を閲覧出来る様にしてある。薬の変更などがあつた際は、その理由と薬の効能、注意点を口頭と連絡ノート記載にてスタッフ全体に伝えている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し入居者に合わせて行なっている。水分の摂取や乳製品の摂取、運動を行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔洗浄の声掛けの実施。必要に応じて介助。また、モンダミンを使用している方も居る。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量のチェック表を作り観察している。一人ひとりに合わせて食べられる量を提供している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後のうがい手洗いの実施。面会者にも協力していただいている。洗面所に消毒薬を設置してある。トイレ内に使い捨てグローブの設置。感染症についての基礎知識ファイル、対応マニュアルを常に閲覧できる所においてある。		インフルエンザの予防接種 流行時のマスク使用

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>週一回の冷蔵庫清掃の実施 まな板、包丁、ふきんの消毒の徹底</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前の通路にお花を植え整備している。</p>	○	<p>建物の構造上入り口が分かりづらいので工夫が必要と考えている。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節に応じてホーム内の飾りを替えている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ロビーにくつろげるソファや椅子を置き、自由に過ごしていただいている。 入居者同士気が合わない人も居るので配置を考えて居場所を作り工夫している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人の思いに沿って使用していただいている。必要に応じ(介助が必要になったり場合)本人、家族と相談し、配置換え等も行っている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>午前、午後の居室の換気。他、居室掃除や必要に応じて換気を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要最低限の手摺は設置してある。 居室等で必要と判断した場合は、家族に相談しその人に合った物を取り付け、自分で行なえるように配慮している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人の意思を尊重し、その人に合わせた対応をしている。調理や片付け等入居者が自力で出来る様に、椅子やテーブル、使用する道具を個人に合わせて準備する。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や小さな畑があり、水遣りや、草抜き等楽しんでもらっている。咲いた花を室内に飾ったり、リビングから咲いている花を楽しむ、花の名前を調べたり、花の歌を歌ったりする。収穫したものを一緒に調理したり、食べたりしている。	○	外へ出る段差を工夫し、安全に出られるようにしたいと考えている。 現状車椅子で出ることが困難。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p><input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p> <p>スタッフ不足等で、負担をかけてしまった。</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p> <p>認知症が軽度の入居者さんには満足できていない部分がある。</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者さんが毎日を明るく元気に、安全で安楽に過ごせる様に気を配りお手伝いさせていただいています。
2ヶ月に1度の大正琴のボランティア訪問をして頂き、家族も巻き込んで楽しんでいます。
体力の低下の予防として、母体である山下整形外科PTの協力の下、リハビリに通ったり、ホーム内でも歩行練習を行っています。
スタッフと入居者さん、家族さんとの信頼関係が出来ている。
“スタッフと入居者”という雰囲気ではなく“家族”“親戚”のような関係になっている。怒ったり怒られたり、一緒に笑ったり、泣いたり。
家族さんもプライベートな相談や愚痴を話してくれたりしてくれます。
話しやすい雰囲気作り、常に寄り添う姿勢を持っています。
今後も入居者さん、家族さんが安心して過ごしていただける様にお手伝いさせていただこうと思っています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム すてきだね ゆたか館	評価実施年月日	平成21年2月19日
評価実施構成員氏名	天坂 服部 小野	阿部 星野 高橋	芝 熊谷 平野 清水 関野
記録者氏名	天坂	記録年月日	平成21年2月19日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念 “素敵だね 笑顔がいいね この家で それぞれの そしてみんなの 今が生きる” パンフレットに掲載。来訪者にも見て頂けるように、玄関に掲示している。		地域の方の入居を優先に考えている。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日常のスタッフ間の会話、ミーティング等により日々取り組んでいる。スタッフは入居者さんの笑顔を引き出せるようコミュニケーションを取り明るい雰囲気を作っている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を玄関に掲げ、来訪時に目の届くようにしている。家族会、地域住民、ボランティアの参加したお祭り運営推進会議等の開催により取り組んでいる。	○	回覧板で通信を発信したいと思っている。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	外出時にこちらから積極的に挨拶し会話を持つ様に努めている。町内の方からも声を掛けていただいている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会している。毎年「ほほえみ祭り」を開催し、町内外の方にも参加して頂いている。	○	町内行事に参加出来るように取り組んで行きたいと思っている。入居者の状態の変化もあり、現状行事等の参加は困難な為、ホームの行事に参加してもらえる様に働きかけて行きたい。消防訓練や、ほほえみ祭り等。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現在出来ていない。	○	ホーム入居者の安全を守るために精一杯で出来る状況でなかった。今後前向きに検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価に伴い改善に取り組んでる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的な開催が出来なかった。急な離職者によりスタッフ不足が続いたのと、入居者さんの体調不良(ターミナル)等が重なり出来なかった。	○	行事に合わせて取り組み楽しみながらグループホームの事を知ってほしい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険認定手続きや分からないこと等が合った場合は市役所に訪問したり電話をしたりし相談を行なっている。地域包括センターとの連携も取れている。毎月包括からのお便りもいただいている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	実施していない。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待は行なっていない。虐待については、職員一人ひとりが意識をし徹底している。NCについての学習会を行なっている。		5分間ミーティング等を利用して問題の無いように話し合い解決していくようにしている。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	お試し入居期間を設け、十分な説明を行なっている。事務長、管理者、介護支援専門員が具体的に説明を行い、理解、承諾を得ている。ご家族さんの要望なども聞き取りケアの方法を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の健康管理と共に精神面の観察を行いその都度不満や、苦情を聞き対応している。	○	現状、管理者が対応しているので、今後職員が誰でも対応出来るようにしていきたい。 精神面の不安定な時は家族さんの面会をお願いし思いを表せるようにしている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月通信を作成し郵送している。本編とは別に個人ページも作成し状況を報告している。健康状態に変化が見られた場合はその都度家族へ報告している。 遠くの家族さんには現状報告書を送っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。面会時等でも気軽に話してもらえるように配慮している。 来訪時には、声を掛け、日頃の様子を報告し、相談しやすい雰囲気作りに努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	5分間ミーティングを行なっている。(可能な限り毎日) スタッフから意見提案があれば随時、管理者に伝えられている。 また、スタッフの意見が活かされている。 話し合いの内容は連絡ノートを活用している。	○	主に運営者、管理者の意見にスタッフが従う方が多いと思う。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	可能な限り行なっている。 毎月、入居者さんの状態に合わせたスタッフの配置、勤務体制をとっている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は出来る限り行なわないようにしている。やむを得ず異動がある場合は説明している。離職の場合は、ダメージを受けるであろう入居者には、離職の理由を説明し負担にならないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修・講演会を受ける機会を設けている。無資格のスタッフに資格取得の機会を確保してくれている。ミーティング等ですぐに役立つ介護方法について勉強会を行なっている。必要に応じて参考となる資料の提供、介護技術も経験者からの指導伝達が行なわれている。	○	外部研修へ参加が必要と考えている。講師を招いての勉強会を増やしたいと考えている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ネットワークは出来ていないが、交流は出来ている、課題の対応法や相談は出来る、その中でサービスの質の向上もある。	○	デイサービスとの交流の機会を増やしていきたい。(合同での新年会や忘年会等)
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	不便な環境があれば即対応改善している。何でも話せる雰囲気作り心がけている。	○	親睦会を数回行なっている。今後は定期的に行なっていきたい。シフトの関係上困難な事もあるがもう少し交流、雑談が出来る位の時間を取れるようにしたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	勤務状況を見て、資格手当、昇給を行なっている。資格取得の応援をしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必ずホームの見学を行なってもらい、雰囲気を感じてもらっている。困っていることがあれば出来る限り受け止めるようにしている。	○	地域の人たちがいつでも訪問でき、ボランティア活動できる、ボランティアの人たちから地域の老人や家族から頼りにされるホームになればと思う。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事務長、管理者、介護支援専門員が相談を受けられる体制をとっている。家族さんの意向をよく聴いた上、ホームでの生活を説明し見学して頂いている。		家族さんと密に連絡・報告をしどんな小さな事でも受け入れ、信頼関係を築く努力をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受け、出来る限り対応をしている。色々な方向から適切な支援を考え行なっている。 機能低下を防ぐ為のりハビリなど。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	現在、お試し入居を行い、家族さんに頻繁に来訪して頂き、協力を得ながらホームに馴染めるか、他の入居者との生活が行なえるか、本人の不安にならないか等の工夫をしている。 スタッフが統一したケアを行なう事で安心感をもってもらうよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共同生活者としてお互いに支えあえる関係を築いている。困った時は困ったと伝え助けられている。出来る限り家庭的な雰囲気を持って接している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族さんの面会時の交流、連絡、報告を行い必要時には、家族さんの協力、支援をお願いする等、共に家族としての関係を築いていけるように努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者さんをご家族さんがより良い関係が築ける様、相談にのり支援している。 季節の行事ごとに帰宅(外出・外泊)出来る様に支援している。	○	ご家族さんの都合も配慮しながらも、もっと自宅へ帰る機会を増やしてあげたい(機能低下の防止・時排泄の自立など)
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽に面会に来て頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者さんの性格を把握している。 後片付け、掃除など役割分担をして行ったりレクリエーション等を行いスタッフが間に入って入居者さん同士の関わり合いを支援している。		共同の時間を過ごせるよう、食事・おやつ(AM・PM)時h集まってもらい、孤立しないような工夫をしている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院のお見舞いや季節のお便り等を出している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を尊重し、思いを伝えられない入居者さんには、安楽な生活、無理のない生活が送れるようカンファレンスを行い支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活環境を配慮して生活を送ってもらっている。 家族さんに出来る限りの生活暦を聞き、入居時に一覧にしている。入居後、知り得た事も記録しケアプランに活かしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の記録を個別につけ、一人ひとりの暮らしぶり、変化を見逃さない様に努めている。 また、連絡ノートを利用し把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的カンファレンスを行い、一人ひとりのその時の状況に応じた介護計画を作成している。 スタッフの意見を取り入れてくれている。	○	スタッフの意見が聞けるように担当者会議前にアセスメント用紙に記入してもらっているが、端的に記入出来る物にしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者さんの状態は日々違うので状況に応じたケアを行い、定期・随時カンファレンスを開き計画の見直しを行なっている。家族さんへの報告を密に行い、必要な時は面談・相談を行なっている。	○	職員全員の考えをうけるようにしていきたい。入居者の中に入り一番良いと思えるプランを作っていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者さん一人ひとりの毎日の記録を個別につけ、情報を交換しながら、今後のケアの検討に活かしている。時系列で記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	経営母体である整形ヘリハビリに通ったり、同経営のデイサービスの場所をかり、クリスマス会等を行っている。夏祭りは合同で行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	夏祭りに、福祉専門学校ボランティア、よさこいのボランティア等の協力を得て支援している。消防訓練の協力も得ている。2ヶ月に一度大正琴のボランティア協力年2回消防訓練	○	子供達とのふれあいが出来るようにしていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人、家族の意向や相談を受け他のケアマネージャー等に相談助言を求めている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	良い関係で協働している。課題があれば相談、助言を求めている。		支援が上手くいかない時家族の要望とホームの介護がかみ合わない時など相談しアドバイスをもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科・整形外科・眼科・歯科のかかりつけ医療機関を確保しており、いつでも受診、往診が出来る体制がとられている。 協力医療機関の婦長(非常勤看護師)と常に連携、相談し助言を行なっている。		入居者の様子を観察し受診時に伝えている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけの内科医と相談し対応している。必要時、主治医の指示により、専門医受診(家族対応)している。 受診内容、治療法の指示を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を確保している。 医療処置、相談、助言、ケアの指針を行なっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院に向けて、家族を通して病院関係者と相談して行なっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	方針が決まり次第家族さんとの話し合い、医師の指示等をミーティングを開き、共有している。 ホームでの終末期を希望されている本人、家族には早い段階でDrより説明を行い、家族の意向を聞き対応している。		主治医、家族の協力の下ターミナルケアの経験をさせていただきました。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族、かかりつけ医師、看護師と連携を図り行なっている。 非常勤看護師の助言、ケアの指針に応じてチームとしての支援を行なっている。		協力医の指示、家族の想いに添い、出来る限り入居者がより良い終末期を迎えられるように取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>情報提供シートを活用している。 必要に応じて、ケア関係者と直接話しを聞いている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>必要以上の個人情報の取り扱いはず、スタッフそれぞれ十分配慮し行なっている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者さんの声にスタッフ一人ひとりが耳を傾け不安の無い様な声掛けを心がけている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床から就寝まで出来る限り規則正しい生活を送って頂けるよう支援している。カンファレンス等でご本人のペースに合わせながらも活動的に日々を過ごしていただける様に定期的に見直し支援している。</p>	○	<p>入居者の希望を優先していきたいと努力しているが、人数、時間等の余裕が無く出来ていないこともあるので改善したいと思っている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的に訪問理美容に来てもらっている。ご本人の状態に合わせ、ご家族さんと相談の上望む美容室を利用されている入居者さんも居る。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>好みや能力を活かしながら下ごしらえや後片付けをしてもらっている。また、入居者さんの誕生日には好きなメニューを作りケーキのデコレーション等も行なっている。食事については、見た目にも配慮しミキサー食・刻み食にはせず、柔らかく煮たり、食べやすい工夫をしている。</p>	○	<p>外食や、出前も出来たらと考えている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	健康、安全の為、お酒、タバコはホーム内では遠慮してもらっている。また、入居時にその旨説明し理解を得ている。 午前・午後のおやつ時に希望を聞いたり、好きそうな物をだしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者さんの常態に合わせて、尿とりパット・リハビリパンツ等を使用しているが、状態の変化に合わせて使用を検討している。 排泄チェック表をつけており、個々の排泄パターンを把握し、失敗のないようさりげなく声掛け誘導を行なっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者さんの体調や意思に合わせて入浴して頂いている。 希望があれば出来る限り添う心構えはある。 数種の入浴剤を常備し使用している。 個々の好みのシャンプー石鹸等を使用している。 家族さんの協力を得ながら入浴を勧めたりしている。	○	入居者さんの希望、タイミングに添った入浴をしたい。 夜間入浴等
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は入居者さんの安心できる所で休息してもらっている。(自室・ソファなど) また、夜間、安眠出来るよう、日中刺激を増やし支援している。消灯時間の決まりはなく入居者さんのペースに合わせた入眠をとってもらっている。自室でテレビを観ながら休んでいる方もいる。		昼夜逆転にならないように気配り、配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の後片付けや掃除など、それぞれの能力に合わせて役割を持っている。 また、好みに合わせてふきん縫い、塗り絵等を提供している。 レクリエーション、体操、外出、家族さん面会依頼等で気晴らしの工夫、支援している。		面会記録簿を付けておりタイミングを図り、家族さんへの面会をお願いをしている。 家族さんの面会により精神の安定につながっている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者さん能力に応じて少額のお金を本人が所持している。	○	入居者さん本人が使える機会がない為買い物外出をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出来る限り行なっている。敷地内の散歩や菜園での収穫等行なっている。また、いつでも家族さんと外出できるよう支援している。可能な限り希望に沿うようにしているが、冬季間や時間帯、スタッフの配置等により厳しいことも多い。	○	冬季間は厳しいが足元の良い時期にはお花見や紅葉見学花摘み等、外出の機会を増やしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	初詣、お花見、花フェスタ、紅葉、冬まつり等季節ごとの外出の機会を設けている。	○	もう少し家族の協力を要請していきたいと思っている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	いつでも電話を掛けられるようになっており、必要な方には自室に電話を取り付けられるようになっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問者はいつでも歓迎している。訪問時には、お茶やお菓子を出しつろいで頂けるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	見守りの徹底やスタッフの配置の工夫をし身体拘束をしないケアを実施している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	スタッフの配置の工夫 リビングには常にスタッフを配置し施錠をしないケアを実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リビングには常にスタッフを配置し安全に配慮している。入居者さんの所在を把握し、自室で過ごされている方には、一時間毎の巡回を行なっている。動きの活発な方、歩行不安定な方には見守りやセンサーの設置を行なっている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や薬品等は、鍵のかかるところに保管している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	常に見守りを行い、入居者さんの能力に応じた事故防止に取り組んでいる。年2回の避難訓練の実施。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	普通究明講習の受講 対応マニュアル、緊急マニュアルを見やすいと所に掲示、 応急手当、対応マニュアルがいつでも閲覧できるところにある。		消防の救命救急講習の実施。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練の実施。 マニュアルを見やすい所に掲示している。 避難訓練に町内の方にも参加してもらっている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時、状態変化時にリスクについて、ご家族に話している。 また、面会時に個人記録を見ていただき、日頃のリスクについて理解を求めている。 高齢の為、急変が考えられる場合には、Drよりその旨説明してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	特変時は、バイタル測定を行い状態に応じた対応を行なっている。 1日3回の申し送り、連絡ノートを活用している。 毎日の健康管理マニュアルをスタッフ全員がもっている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者さん一人ひとりの薬の説明書ファイルがいつでも閲覧できる場所にある。薬の変更時は、その都度、理由と薬の効能注意点を口頭と連絡ノート記入にて全スタッフに周知している。また、変更時の様子観察も必ず行なっている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェック表、水分チェック表をつけている。 考えられる原因に応じて水分補給、体操、歩行練習、乳製品の摂取等行っている。 慢性的な便秘の方には、医師の指示の下、下剤、整腸剤の服用を行なっている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔洗浄、義歯洗浄の支援を行なっている。 一人ひとりに合わせた歯磨き粉、歯ブラシを使用している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量チェック表、水分摂取量チェック表をつけている。 高齢者は水分を摂りたがらない方が多い為、果物、ゼリー、氷等を利用し水分摂取については意識的に行なっている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防として、うがい手洗いの徹底。 排泄ケア後の便座等の消毒、手指の洗浄消毒の徹底。 キッチン使用後のシンク、調理器具の洗浄、消毒の徹底 感染症基礎知識ファイルがいつでも閲覧できる場所にある。		インフルエンザの予防接種 流行時のマスク使用

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材の消費、賞味期限の確認を行い、安全な管理に気を配っている。使用後は必ずシンク、調理器具等の洗浄消毒を行なっている。キッチンの見やすい所にマニュアルを掲示している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>春から秋にはプランターに花を植えて飾っている。</p>	○	<p>建物の構造上入り口が分かりづらいので工夫が必要と考えている。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節ごとに、正月飾りや、クリスマスツリーを飾ったり、季節に合わせた作品作りを行い、季節感が楽しめるように工夫している。花や観葉植物を置き家庭的な雰囲気を作っている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファの配置を工夫したり、南北の廊下に椅子を置いていつでも休めるようにしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自室はそれぞれの馴染みの家具等を使用し、ご家族の写真や自分の作品等を飾っている。入居時にはご家族に馴染みの物を持ってきてもらう様をお願いしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>リビング、各居室に温度計、湿度計を設置している。毎日午前、午後2回換気を行なっている。乾燥しやすいリビングには加湿器を設置している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要な所に手摺や椅子を置き、能力に応じて自分で出来る様に声掛け支援、工夫をしている。		ソファから立ち上がりやすい様に座布団、クッションを増やしている。 (正しい座位保持、安楽の意も含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室に名札をつけている。迷ってしまう方には分かりやすい様に大きな目印を付ける等工夫している。 一人ひとりの能力に応じた道具を使用し分かる事、出来る事の支援をしている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	入居者さんスタッフと共に、菜園や花壇を作り自由に採ったり摘んだり出来る様になっている。 水遣り、草取り等入居者さん、スタッフ一緒に行なっている。	○	畑までの環境を更に行きやすい様に整備したい。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p> <input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない </p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p> <input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者さんへの目配り、気配り、優しさはどこのグループホームにも負けないと思っています。スタッフは元気で、明るい性格の人が多く、入居者さんも笑顔が絶えません。スタッフ、入居者さんの仲が良くアットホームで家族の様に接しています。

入居者さんスタッフ共に男女そろっておりその時々に応じたケアも出来、スタッフ間のチームワークが抜群です。

ご家族さんもプライベートな悩みや楽しいこと等話して下さったり「親戚」のような雰囲気でお話させていただいています。

入居者さんご家族が安心して過ごしてもらえる様スタッフが気持ちを一つにして日々頑張っています。